

霊場八十八カ所俳遍路

18

村上 護

第十四番 常楽寺

萩の風信心の杖簪につき

山田征司

大日寺から三キロほどで常楽寺に着きます。徳島市の南部、国府町延命にある寺で、小高い丘陵地にあつて吉野川下流部が一望できます。

自然の岩盤が露出した断層を活かして、その上に本堂や大師堂が建つ。至る所にゴツゴツとはみ出す岩肌が野趣を留めて往時の修験を想起させます。

弘法大師が四国巡錫のとき、当地で十七日間修禪したと、このとき弥勒菩薩が出現し説



内閣文庫本「四国偏礼霊場記」(元禄二年版)

法したので、大師は霊木を選び弥勒菩薩を彫り、堂宇を建てて本尊にしたと伝えられます。それにより御詠歌は「常楽の岸にはいつか知らまし弘誓の船に乗りおくれずば」と詠まれます。

弥勒菩薩は未来に下界へ降つて、衆生を救う仏です。衆生を救つて彼岸に渡すのが弘誓の船でしょうか。常楽とは永遠に変わらない楽しみで、それを得るためには弘誓の船に乗らなければなりません。それを励ます意味とも思えますが、これを咀嚼して常楽を寺名としたのでしよう。本尊として弥勒菩薩を祀るのは、八

十八カ所中ただこの寺一カ所だけで。

栄枯盛衰は世の常です。札所の寺も例外ではなかったよう、寂本の『四国偏礼霊場記』には荒れほうだいで無住の寺だった、と伝えていいます。

寂本が最初の霊場記を刊行したのは貞享年間(一六八四〜一八)です。このとき寺は平地にありました。文化十五(一八一八)年に灌漑用の溜池をつくるため低湿地から丘の上に移転した、との記録があります。現在あるのはそれ以来の構築物で、本堂、大師堂、庫裏、生木地蔵堂などがあります。

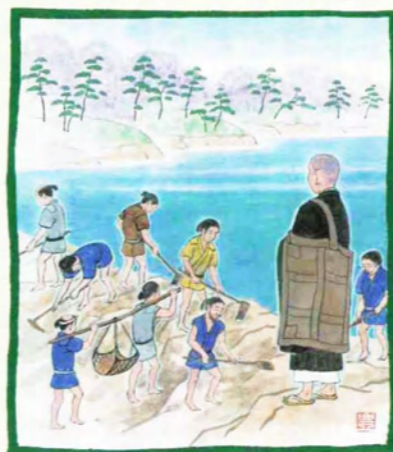
奥の院の地蔵堂に安置されているのが、立木の中に彫り込んだ地蔵像です。また目を引くのは本堂を隠してしまいたいようなほど大きなイチイの木です。アララギともいいますが、これに向かつて祈れば眼病が治るといわれ、「アララギ大師」ともよばれています。

延命水遍路杖にも一筆
手塚美佐

弘法大師 は溜池

30

句・菅谷秀文



絵・橋本豊治

ま 満濃池弘仁年間修復す

八一八年(弘仁九年)

満濃池は讃岐国(香川県)にある。周囲二十一キロで日本で最大なものである。農耕は溜池に水を蓄えて使っており、現在でも大小数々の溜池がある。

満濃池が大決壊して大災害が起き、その後修復するのにあたり、国司が築地使として、空海に白羽の矢を立ててお願いする。

空海の讃岐入りに、老いも若きも、鋤・鍬を持ち参加三ヶ月間で無事に完了した。

堤防を中心に緩いアーチ型にし、水の圧力を分散させた。

一定のかさを越えたらその分を吐き出させる穴、余水吐きを設けた。

六根石 鎖行場大柱・小柱 御奉納のお勧め

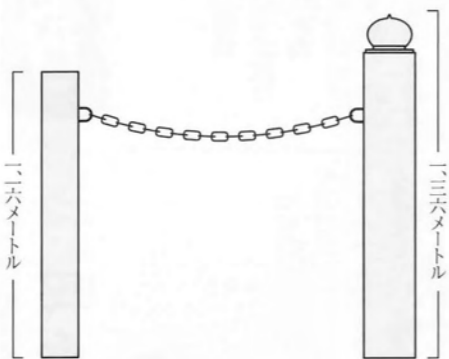
関東修験根本道場である高尾山では、このたび山内に六根石(眼・耳・鼻・舌・身・意)六本と、鎖行場に大柱十本、小柱十六本を造立する運びとなり、御奉納を広く御信徒の皆様にお願ひ申し上げることにしました。つきましては、御本尊・飯縄大権現様との貴い結縁のしるしとして、御奉納される方の御芳名を六根石、大柱・小柱に刻み、幾久しく永代まで残されますので、御奉納を希望される方は、お早めにお申し込み下さい。尚、数に限りありますので、満数に成り次第締切らせて戴きます。

六根石	六本	一本につき	五十万円也
大柱	十本	一本につき	三十万円也
小柱	十六本	一本につき	二十万円也

大本山 高尾山



二二メートル



小柱 16本

大柱 10本

得度式 厳修

七月二十八日(土)の早朝、高尾山大本堂に於いて、大山御貫首の戒師のもと得度式が執り行われた。得度者は、大山隆玄御貫首法資の村岡隆融と、神奈川教区、寶蔵寺住職・谷口隆憲僧正法資の葉法實の二名で、新たに仏門に入り、真実の求道者としての道を歩み始めた。

